

農業振興部門  
全国水土里ネット会長賞

兵庫県  
八幡地区

加古川市東部土地改良区

維持管理コストの軽減と省力化により  
認定農業者の数と経営面積は事業前の2倍に

位置図



パイプライン化や暗渠排水の設置で  
8割が「水管理作業が楽になった」

八幡地区は、兵庫県最大の河川である加古川の左岸

に広がる水田地帯です。昭和40年代から50年代に県営  
ほ場整備事業が行われたものの、完了後30年が経過し、  
施設の老朽化と機能低下が進行しました。

そこで、平成19年から27年にかけて経営体育成基盤  
整備事業を実施し、用水路のパイプライン化や排水路

の底張り、暗  
渠排水の整備  
を行いました。

これによ  
り、用水の管  
理にかかる労  
力や時間が大  
幅に削減。地  
区で実施した  
アンケートに  
よると、83%

の人が「水管  
理作業が楽に



セトデュール（デュラム小麦）の収穫

なった」と回答しています。また、用水路周辺の草刈  
りや泥上げなどの作業が不要または軽減となったこと  
で、74%の人が「維持管理作業が軽減された」と回答  
しています。

また、維持管理労力の軽減と農作業の省力化が実現  
したことで、事業前は78%だった農地利利用率は、事業  
後の平成30年には101%に向上しました。

同時に、農地の集積も進みました。加古川市東部土  
地改良区が中心となって地域で話し合いを進め、平成  
27年度に6つの集落を横断する「人・農地プラン」を  
作成。農地中間管理機構への貸し付けによる農地集積  
を進めました。これらにより、地区の認定農業者の経  
営面積は、事業前の48.9haから101.1haへ拡大。  
集積率も21%から44%へ向上しました。なお認定農業  
者数は、事業前の平成18年には個人経営3名、法人1  
名の計4名でしたが、事業後の平成28年には個人経営  
6名、法人2名の計8名に増加しています。

日本初の国産デュラム小麦を作付け  
加工品の製造・販売にも力を入れる

農作物の作付面積も拡大しました。事業前に比べて、  
小麦は26%拡大。キャベツやナスを始めとする野菜は



「加古川パスタ」を開発

285%と大幅に伸び  
ています。

小麦については、農  
事組合法人「八幡営農  
組合」が日本初の国産  
デュラム小麦となる  
「セトデュール」を導  
入。現在は23haで作付  
けされており、将来的  
には70haの作付けを目

指しています。付加価値の高い加工品の製造・販売に  
も力を入れ、平成29年度にはセトデュールを使った「加  
古川パスタ」を商標登録。他にも、地元産の農産物を  
使った豆腐や半生ソバなどを商品開発し、地域の農産  
物直売所で販売。6次産業化を進めることで雇用も創  
出し、現在は従業員5人、パート17人を雇用しています。  
基盤整備事業の実施は、八幡地区に安定的な農業経  
営をもたらし、地域の活性化に大いに貢献しています。

事業概要

|              |                 |         |      |
|--------------|-----------------|---------|------|
| 事業主体         | 兵庫県             |         |      |
| 事業名          | 経営体育成基盤整備事業     |         |      |
| 工期           | 平成19年～平成27年     |         |      |
| 受益面積         | 231.9ha         | 受益戸数    | 773戸 |
| 標準区画規模       | 事業実施前 30a →     | 完了後 30a |      |
| 1ha以上の区画合計面積 | -               |         |      |
| 主要工事         | 用水路工、排水路工、暗渠排水工 |         |      |
| 関係土地改良区      | 加古川市東部土地改良区     |         |      |
| 関係市町村        | 加古川市            |         |      |